

【インドネシアで伊豆沼の活動を発表してきました】

2014年8月24日から30日にかけて、環境省からの要請を受け、インドネシアで開催されたラムサール湿地管理者を対象としたワークショップに出席しました。国を超えて移動する渡り鳥を守るには、国際協力が不可欠です。今回、東アジア各国から、ラムサール湿地保全に取り組む機関の代表者が集まり、各国との情報交換と、湿地の保全に向けた新しいツールの講習会が行われました。私は日本からの代表として伊豆沼の状況を発表してきました。外来魚防除活動など、伊豆沼の先進的な取り組みは各国の興味を引いたようで、帰国後も色々な問い合わせもありました。現地のラムサール湿地も訪れ、マングローブの植林活動などを視察してきました。今回の国際交流で得た経験は、今後の沼の保全活動に生かしていきたいと思えます。



インドネシアのラムサール湿地の一つ、島。数十haの小さな島ですが、島全体がウミウやサギ類の繁殖地となっていて、あちこちにコロニーが見られます。島の中央には高さ約20mの展望台があり、島全体を見渡せるようになっているため、鳥のモニタリングにも、観光客にとっても便利な施設となっていました。



小さな島ですが、全長120cm近いオオトカゲが生息し、私たちの前を悠然と歩いていた。羽を広げると1m近くありそうな大型のフルーツバット（コウモリ）が何匹も木にぶら下がって果実を食べていたり、興味深い自然を見ることができました。（藤本泰文）